

英語遠隔授業に関するアンケート調査

長井 克己（大学教育基盤センター教授）

1. 目的・対象・手続き

新型コロナウイルスへの対応に明け暮れた 2020 年度は、全学共通科目の英語もほぼ全ての授業を遠隔で実施することが求められた。口の形を目で確認しながら大きな声を出し、ペアワークで対話の練習を重ねるのが語学の授業であるが、そのどちらもが教室で行えなくなってしまった。1 年生のほぼ全員が一斉に受験する TOEIC Listening & Reading (L&R) テストはまさに大教室でのイベントであったが、教室定員を見直し換気や消毒を徹底することで、後期は何とか実施することができた。本稿はその際に会場で 1 年生を対象に実施した英語の遠隔授業に関するアンケート調査の報告である。翌 2021 年度前期に実施した同内容の調査結果も並べて報告する。

調査の対象となったのは 2020 年及び 2021 年 4 月に本学に入学した 1 年生ほぼ全員である。2020 年度は 1180 名（回収率 97%）、2021 年度は 1240 名（回収率 98%）の回答を得た。

データは全てマークシートで回収され、記入した内容が担当教員に公開されたり、成績に影響したりすることは一切ないことが、文書で事前に説明されていた。分析に当たっては同日実施した TOEIC Listening & Reading (L&R) テストのスコアにより、回答者を上級層（550 点以上）、中級層（300-545 点）、初級層（295 点以下）の 3 群に分けた。各層の人数は 2020 年度がそれぞれ $n=95(550-)$ 、890(300-545)、195(-295)、2021 年度は $n=95(550-)$ 、909(300-545)、236(-295) であった。

2. 結果

遠隔授業と対面（面接）授業との比較についての結果を、図 1（2020 年 12 月）と図 2（2021 年 7 月）に示す。2020 年度の上級層は他の層に比べ対面より遠隔を志向しているが、その傾向が 2021 年に消失している。調査時期の違い（7 月と 12 月）と、2 年目の教員側スキルの向上が効果を与えている可能性が高い。次に遠隔授業の長所についての回答を、図 3（2020 年 12 月）と図 4（2021 年 7 月）に示す。通学の負担がない、集中できる、自分のペースで学べる、が 3 大長所に見える。集中と私語のなさは類似ベクトルであったことと、複数回答ができなかったことについては、次回の調査で改善したいと考えている。

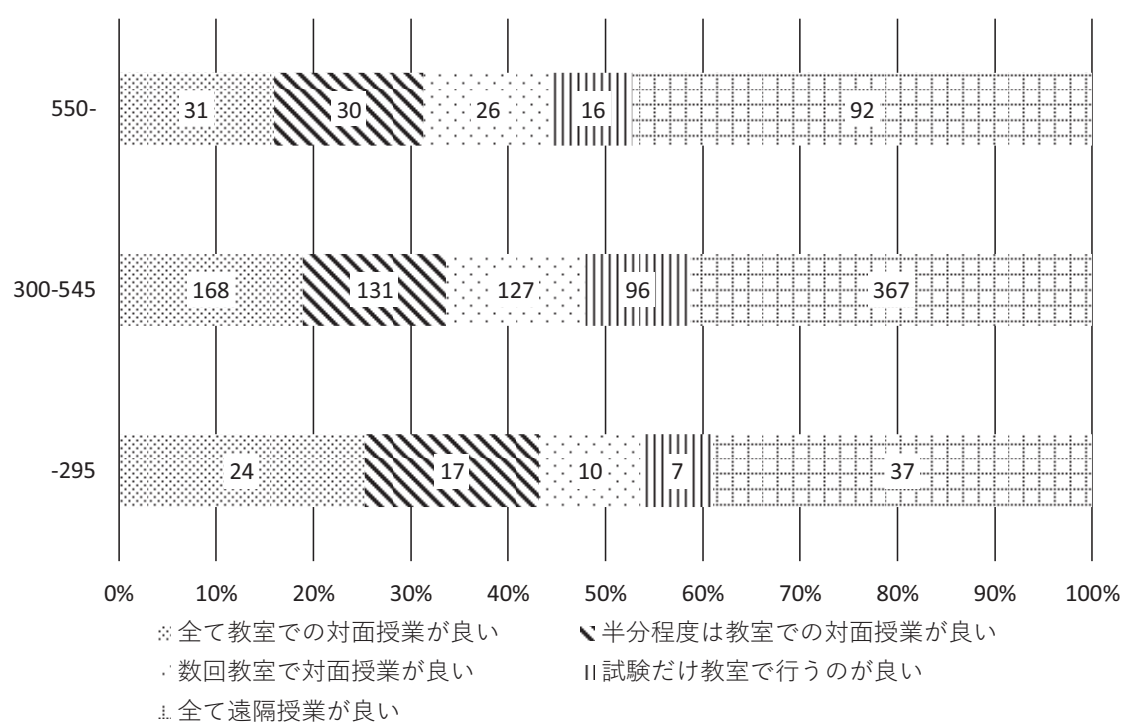


図 1 英語の授業を受ける場合、オンライン等による遠隔授業と教室での対面授業とでは、どちらが良いと思いますか？（2020 年 12 月、縦軸は TOEIC L&R テストスコア）

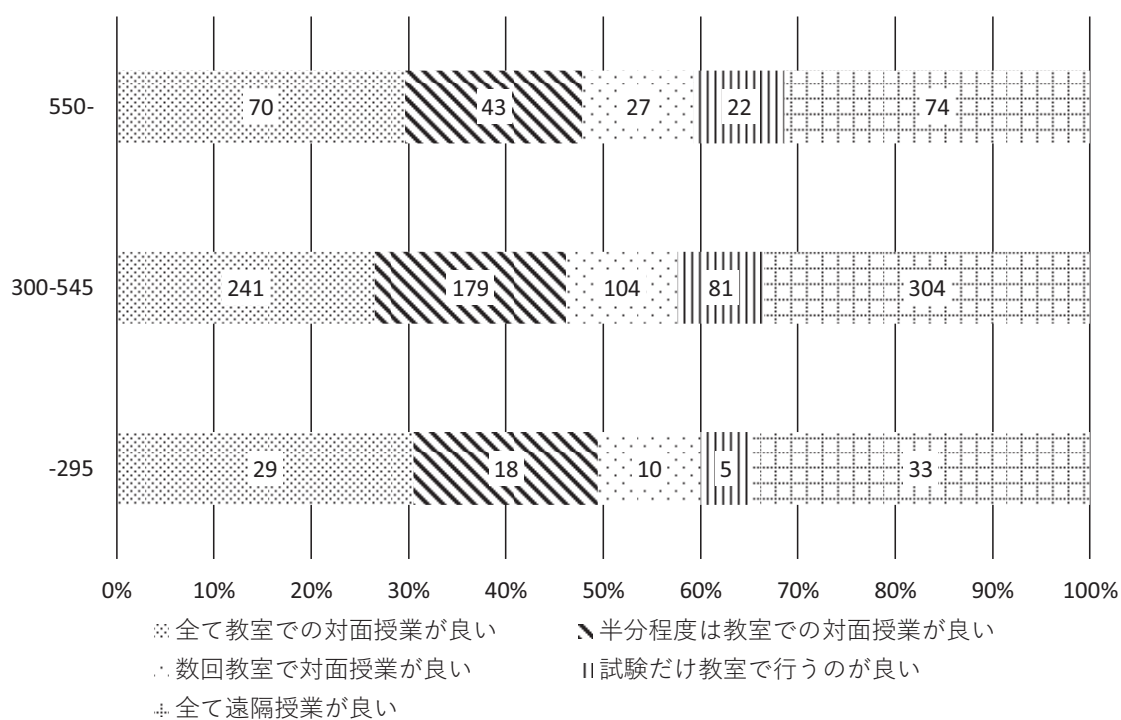


図 2 英語の授業を受ける場合、オンライン等による遠隔授業と教室での対面授業とでは、どちらが良いと思いますか？（2021 年 7 月、縦軸は TOEIC L&R テストスコア）

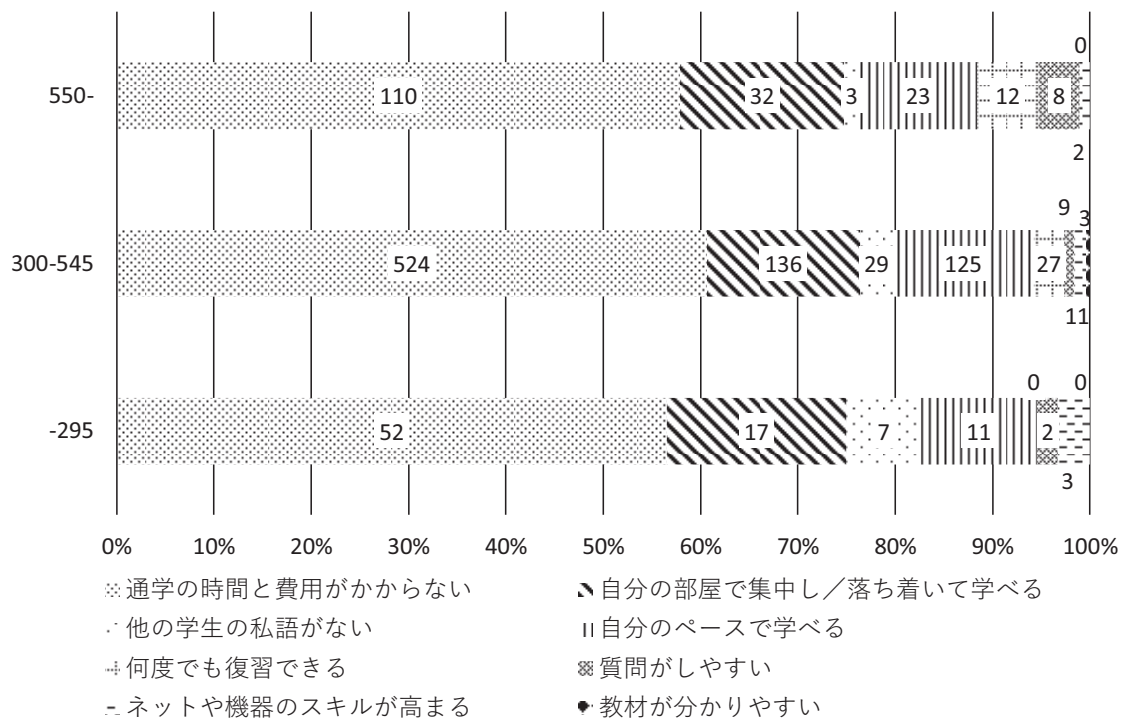


図3 教室での対面授業と比較して、オンライン等による遠隔授業が優れていると思う点は何か？一つだけ選んでください。(2020年12月、縦軸はTOEIC L&Rスコア)

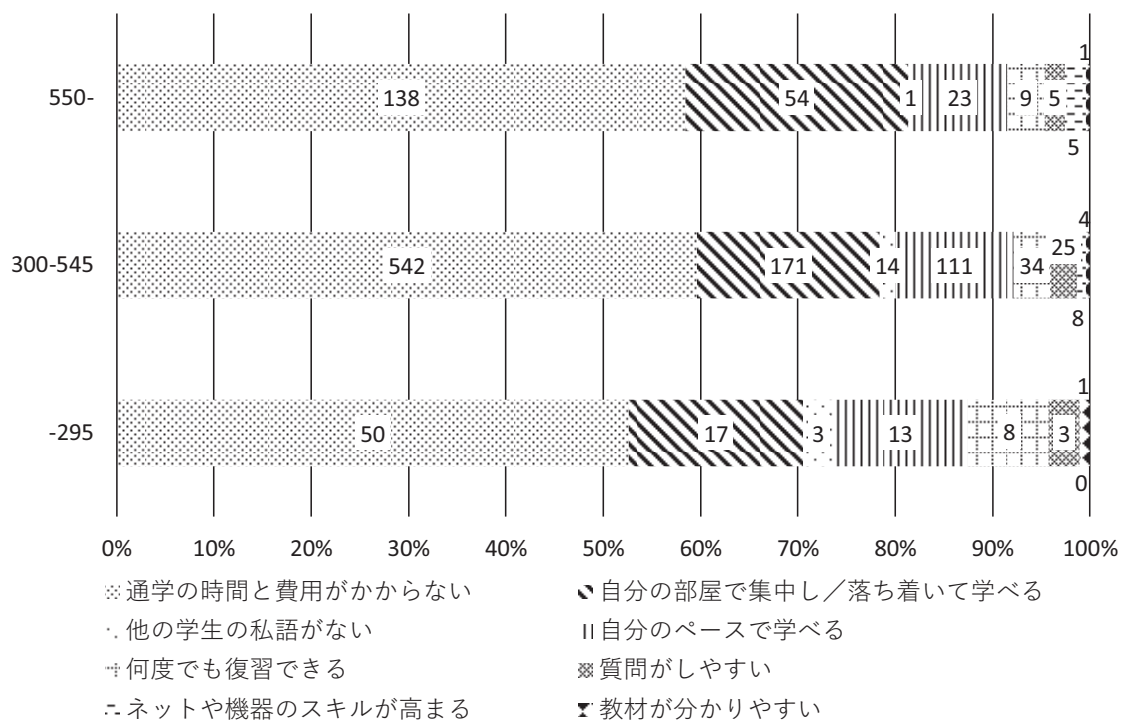


図4 教室での対面授業と比較して、オンライン等による遠隔授業が優れていると思う点は何か？一つだけ選んでください。(2021年7月、縦軸はTOEIC L&Rスコア)